GIGAスクール構想

タウンニュース R3.5.20

授業のICT化スタート

鴨志田中で生徒が体験

児童生徒に1人1台の端末を配布し、教育ICT環境を整備する「GIGAスクール構想」に基づき、横浜市は児童にタブレット、中学生にノートパソコンの配布を完了。青葉区の市立学校でも取組みが進んでいる。

市のプログラミング教育実践推進校に指定されている鴨志田中学校（濵﨑利司校長）では、5月6日にノートパソコン型の「クロームブック」が配布された。現在はICT担当の教員らを中心に授業での活用を始めており、11日には1年3組の生徒が社会科の授業で仏パリの画像をネットで検索し、レポートにその画像を挿入する方法などを学んでいた＝写真。生徒の根橋りささんは「今までのパソコンよりも使いやすいので面白い」と笑顔で話し、小佐井奈生（だいき）さんは「レポート作成など使える幅が広いので、活用していきたい」と語った。ICT担当の緒方悠教諭は「まずは端末に慣れ、目標は自分で端末やアカウントを管理できるようになること。レポート作成などで活用していくが、大人の発想を超えたものを作ってくる生徒も出てくると思うので楽しみ」と語った。

GIGAスクール構想とは …児童生徒1人1台の端末と高速大容量通信ネットワークを教育現場に整備することで、教育現場のICT環境を実現するというもの。文部科学省が提唱し、横浜市も2020年9月に独自構想を策定した。

教員の活用がカギ

実際にICT化を進めていくには個々の教員が授業に取り入れていくことが欠かせない。同校ではICT支援員の協力も得ながら研修を進めている。緒方教諭は「苦手とする先生もいるが、校内アンケートに端末を活用して効率化するなど働き方改革にも役立てられる。研修を重ね、上手に活用したい」と語る。

市教育委員会によると、小学校・特別支援学校に配ったタブレット端末は初期設定が必要で、5月末をめどに全校で完了させ、本格的に活用していくとしている。

横浜大空襲から平和学ぶ

県民センターで戦争展

横浜大空襲の記憶を伝える「平和のための戦争展inよこはま」が、5月23日(日)と30日(日)に横浜県民センターで開催。終戦の年の5月29日に米軍のB29爆撃機が戦後50年を迎えた翌年の1996年から戦争展を開催。

主催者は「空襲による戦争をテーマにした朗読劇、大学教授らの講演などを行う。

教授）▽朗読劇「少女たちの戦争―横浜大空襲」日吉台中学校演劇部▽報告「5月29日・野毛山で―どう逃げ惑ったか」ゆりはじめさん（文芸評論家）、NGOグローカリー【30日】▽講演「非人道兵器を禁止させたもの―地雷廃絶の経験から」日日弁連（日